



水谷 寶清寺

どの檀家としての契約状況が家族に伝わっていないなかったり、何年も前の事で失念してしまったり、何などの状況の中で、悲しみと動揺から親戚や病院で紹介された葬儀社の意見に誘導されて葬儀が進行されてしまうことがあります。当山でも、「たちばな」第三十六号を発行した、今年の七月以降に、菩提寺があるにも拘らず、当山に連絡もなく葬儀を済ませた後、「四十九日忌の法要と埋葬をさせていただきたい。」と連絡をしてくるというトラブルが数件ありました。最近では、病院で亡くなられる場合が多く、病院から指定の葬儀社を紹介されることがあります。その場合は、「通夜・葬儀について、先ずお寺に連絡するようお願い致します。又、御家庭で皆さんが健康な時に、不幸があっても慌てないために、又、トラブルを未然に防ぐためにも何かの機会にお寺との関係について、話題にして載ければ幸いです。

明けまして

御座います

暮れの慌ただしい時間が、除夜の鐘で一変し、また新しい一年が始まりました。次のような時の偶があります

生死事大 無常迅速 各宜覚醒 慎勿放逸

(迷いの生死をいかにすべきか、これは大問題だ。なのに無常の時の流れは、あつという間に過ぎてしまう。各々迷いから目覚めなさい。なにをうかうかしてゐるのか。)という意味です。迅速なる無常の時の流れから逃げ切れる人は誰もいないのは確かです。「法句経」に、「時のつきあい方について

人もし生きていること百年ならんも知慧おとりてこころ静けさをえざるは知慧をそなえて思い禅なるひとの一日生くるにもおよばざるなりとあります。一瞬、一瞬の「今」と真剣に渡り合う生き方こそ、迅速なる無常の時の流れに押し流されない、誠実な生き方ではないでしょうか。「知識」は過去の結果を知る事です。「智慧」は未来の生き方を方向づけるものです。「今」をいとおしみ、いづくしみながら、「智慧」をもって生きていきたいと思います。



「もしもの時に」

平成十三年七月一日発行第三十六号の寺報「たちばな」にてお願いをした葬儀に関する件について、趣旨が徹底されていないさまがありますので、再度、お願い致します。宝清寺の墓地を見学され、申し込みをされる方の多くは、突然身内に不幸があり、急遽墓地を探している方か、仏様はいないけれど、将来、子供達の負担を軽くしたいとの考えから求める方々です。特に、家族の将来のためにとの考えで墓地を求められた方の大部分は、檀家として墓地の永代使用の契約をしたのは両親です。その両親が何年も経って亡くな

れた場合に、亡くなられた方と当山にして載ければ幸いです。

百八煩惱の鐘の音

除夜には、暗い心の闇を取り除きたいという願いから、百八の煩惱を打ち破る鐘を撞き、心身ともに清らかな新年を迎えようとなります。百八の数は一般的に、人々が一年間を四苦八苦で暮すところから四苦が四×九＝三十六、八苦が八×九＝七十二の合計が百八となるからです。お釈迦様は「この世は、一切皆苦である」と説いています。苦を代表するものが、生まれる(生)・老いる(老)・病む(病)・死ぬ(死)・苦しみの四苦と、愛するものと分かれる(愛別離苦)・怨み、憎しみを持つ人とどうしても会わなければならない(怨憎会苦)・欲しいものを求めても手に入らない(求不得苦)・人間の心身からくる(五蘊盛苦)の苦しみをあわせた四苦八苦です。お釈迦様は、苦を生ずる根本原因を、自分が欲しいと思うものを貪り求める我欲(貪)・そこから憎しみと怒りを起こす欲望(瞋)・正しい真理に対する無知、錯覚(痴)にあり、その原因を取り除くために、以下それぞれ、正しい見方である(正見)・考え方(正思)・言葉(正語)・行動(正業)・生活(正命)・努力(正精進)・注意力(正念)・精神統一(正定)の八正道を説いて、苦の問題解決の為に、正しい考え方や智慧をもって生きようと教えています。

「億劫」

(仏教の説く時間の単位)

何かすることを面倒がることを「おっくう」といいますが、本来は仏教の説く時間を意味しています。「劫」とは時間の単位です。たとえば、縦・横・長さが一六〇キロメートルの大岩があったとします。その岩に百年に一回天人が降りてきて、その岩で岩面をなぞる。そして、その大岩がすり減って消滅してしまいうまでの時間を言います。その時間の一億倍が「億劫」の語源です。ところで「法華経」では、仏は「億劫に一度会える」と説いています。仏に会うのは、それほど難しいことを表わしているのです。「億劫に一度とは、気が遠くなる話です。そんなこと、考えただけで「億劫」だとなり、かくして「億劫」面倒なこと、気がすまないことを意味するようになったのです。

次回は「ガランドウ」についてです。

立教開宗七五〇年

記念法要のお知らせ
平成十四年五月二十二日に、宗祖日蓮聖人立教開宗七五〇年記念法要を府中市の東郷寺で厳修致します。当日は法話・琵琶の演奏等を計画しています。詳細は次号の寺報「たちばな」でお知らせ致します。送迎バスを用意する予定ですので、是非ご参加をお願い致します。

除夜の鐘

当山では、除夜の鐘を撞き、心身ともに清らかな新しい年を迎えられるよう祈願のご祈禱を行います。是非お参り下さい。

